

ラインハルト・ウェーザー著「緊縮路線で成長実現－危機克服のバルト 3 国－」独フランクフルター・アルゲマイネ紙、2013 年 6 月 12 日、日本経済新聞 2013 年 6 月 15 日刊を読む

緊縮路線で成長実現－危機克服のバトル3国－

1. (1)バルト 3 国のエストニア、ラトビア、リトアニアは 4 年前に経済危機に直面し、2 ケタのマイナス成長を記録した。
(2)だが今では劇的な緊縮策のおかげで健全性を取り戻し、成長軌道に乗った。
2. (1)エストニアは 2 年前にユーロ圏に参加した。
(2)ラトビアは来年、リトアニアはおそらく 2015 年にユーロを導入するだろう。
(3)ここに通貨同盟の信奉者は 2 つの好材料を見いだしている。
3. (1)ひとつは徹底した緊縮策が完遂できるということと、それが成功につながるという点。
(2)2 つ目は債務危機のなかでも通貨ユーロがなお魅力的だということだ。
4. (1)もっともラトビアとリトアニアの政府は国民の意に反してユーロを導入しようとしている。
(2)国民は社会保障の切り捨てに賛成しなかったし、公務員は給与の 2 割カットに拍手を送ったわけではない。
(3)アイルランドでもギリシャでも見られたような政界汚職やコネ社会などはバルト 3 国でも巣くっていた。
5. (1)それでもバルト 3 国が素早く対策を打ち出し、(その改革を)遂行できたのはなぜか。
(2)それは旧ソ連時代の遺産があったからだ。
(3)社会は結束力に欠け、労働組合も利益団体も力が弱い。
(4)(独立後の)過去 20 年間の体制以降のなかで混乱を経験し、だれも政府をあてにしていない。
6. (1)最も高い代償といえる西欧への大量移住も調整弁として働いた。
(2)それでも 3 カ国の政界は緊縮路線が正しかったとの認識で一致する。
7. (1)あまり語られてはいないが、実はユーロ導入は経済的な側面だけでなく、政治的な意味が大きい。
(2)(国境を接する)ロシアは潜在的に危うい存在ととらえられ、欧州連合(EU)との連携を強めるほど、ロシアの影響力を低下させることができる。
(3)経済危機で国のもろさが露呈し、エリート層に責任感が芽生えた。
8. (1)とはいえ 3 カ国とも政府は国民に対し、難しい立場にある。

(2)バルト諸国の人たちは、自分たちよりもはるかに豊かな南欧諸国の人たちがなぜ(緊縮策を)できないのか理解できない。

9. (1)だからバルト 3 国の政治家はギリシャやスペインに情けをかけることなどせずに、財政規律をきちんと守るように超党派で求めている。

(2)ユーロの将来を巡る欧州内の議論でもドイツの味方となっている。

[コメント]

国家の存亡は「国体」(他国の占領なしで自国を統一すること)をどう維持するかで決定する。バルト 3 国(エストニア、ラトビア、リトアニア)は、徹底した緊縮策とユーロ参加で経済危機を克服し、国体の維持に成功した GDP の 2.5 倍の 1000 兆円以上の国と地方の債務をもつ日本は、さらに printing money を続けて本当に大丈夫なのか。成長戦略に乗せるための規制改革ができれば完全アウトとなるが、本当に大丈夫なのか。ドイツ日刊新聞フランクフルター・アルゲマイネ紙記者、ラインハルト・ウェーザー氏のバルト 3 国からの報告をよく読んで考えたい。

－ 2013 年 6 月 17 日 林 明夫記 －